

中高一貫だより

<編集・発行>
えりも地区連携型
中高一貫教育

中高一貫教育として、今年度のえりも中学校で取り組む内容について、お知らせします。

1年A組 寶金 楓夏

環境フィールド学習

『百人浜に学ぶ』

6月12日(月)5・6時間目に日高南部森林管理署えりも治山事業所治山技術官の瓜田元美氏を講師に招き、百人浜緑化事業の歴史について学習しました。また、6月19日(月)に百人浜で植樹を行いました。今回は講演を聞いた子どもたちの感想と、実際に植樹体験をした子どもたちの感想を一部紹介します。

1年B組 本間 舜都

「百人浜に学ぶ」講演を聞いて

ぼくは、講演を聞いて、心に残ったことは、「草本緑化」と「木本緑化」を始めて、毎日、70人がそれを行うということがすごいと思いました。

それと、なぜ砂漠化したかという、羊が草を食べて、バッタの大群が来て砂漠化したことにおどろきました。

ぼくは、60年前の人が努力してくれたからこそ、クロマツばかりの森になったと思います。今度は、ぼくたちが役に立ちたいです。

「百人浜植樹」を終えて

ぼくは、百人浜植樹を終えて、心に残ったことは、実際に、クロマツを見てみて、飯田さんたちが努力を重ねて、その伝統を受け継いだから今、ここにあるんだと思いました。

そして、実際に植えてみると、これから、どうやって大きくなるのかなぁと思いました。

最後に、ぼくが高校生になるまでに、すくすくと成長してほしいと思いました。

「百人浜に学ぶ」講演を聞いて

私は講演を聞いて、社会や理科で聞いた内容とはまた違った内容だったので、緑ができるまでの事と、作業内容をくわしく知ることができました。それと、「ゴダ」以外にも「わら」などが使われていることも新しい発見でした。あと、DVDや説明をしている時に図が使われていて文だけでは理解しづらい内容も理解することができました。そして森と海は関係しているのは知っていましたが、木が海に栄養を送っているのは初めて知りました。このことをふまえて、植樹に取り組もうと思います。

「百人浜植樹」を終えて

私は植樹を終えてみて、木は苗木のころはとても小さいので、道路の近くなどに生えている松の木などみたいに大きくなるとは考えられませんでした。けれど、これから大きくなっていくと考えたら、森の中でどんどん成長していったほしいなぁと思います。そして今回の植樹を通して、森林や海などの環境問題について深く考えることができました。なぜなら、自分が木を生えるだけでも一苦労するのに、昔のえりもの人々は私たちがやった何倍もの広い土地に木を植えていたので、「すごいなぁ」と思いました。



1年A組 犬山 祐輔



「百人浜に学ぶ」講演を聞いて

ぼくは、おかしは、アイヌの人が住んでいて、岩手などの人々が来て、木などの森を伐採したということについて、岩手の人はひどいと思っていたが、おかしは、まきストーブなどでつかうと聞いて、しょうがないと思った。アイヌ語で「えりも」は、「大きな岬」ということをはじめて知った。木を植えたりすることは、14億円もかかっていたことがわかった。パッタも影響しているということに一番驚いた。そしておかしの人々のいろいろな努力があったから、今のえりも岬があるということがわかった。そして、「ゴダ」は人々からじゃまものだとされていたが意外と重要な役割をしていて、おかしの人々の発見などもあったから森がよみがえったのだと思った。

「百人浜植樹」を終えて

ぼくは、植樹をして思ったことは、森があれば海があるということです。そして、えりもの海をまもるためには森を大切に、今のえりもの海をまもっていくことが大切だと思います。もう一つは森林を大切にしている人たちは、くま、はちなどの対策をしていることが分かりました。その対策がすごいと思いました。



1年A組 能登 駿介

「百人浜に学ぶ」講演を聞いて

今回の講演を聞いて、少しだけ自業自得と思いました。しかし、その反省で人々の知恵を生かして砂漠化していたえりもが今は、立派な森になったことがすばらしいと思いました。今は、数々のコンピュータなどがあるけど、昔はコンピュータがない中でもできたことがよけいにすごいと思いました。

「百人浜植樹」を終えて

今日の百人浜植樹を終えて、ぼくは、一度も植樹をしたことがなかったのでうまくできるか心配だったけど、教えてくれた人のおかげでうまくできました。その前の「カミネッコ作り」では、一人二つ作るということで一つはうまくいき、もう一つはうまくいきませんでした。今回の植樹体験を通して楽しくできたので良かったです。

